

追 悼

名誉会員 千地万造先生を悼む

京都大学名誉教授・元関西自然保護機構理事長 渡 辺 弘 之

関西自然保護機構（KONC）の創設者のお一人で、理事長・会長をされ、名誉会員に推挙されていた千地万造先生が平成27年1月31日に亡くなりました。1927年生まれだったので、享年87歳でした。大阪市のお生まれで、大阪府立岸和田中学校（旧制）、第五高等学校（旧制）を経て1950年、京都大学理学部地質学鉱物学科を卒業され、大学院に在籍されながら大阪府立泉陽高校の教諭をされたようだ。

その後、1958年、大阪市立自然史博物館の前身大阪市立自然科学博物館開設準備室に勤められ、1965年、自然科学博物館館長に就任された。1974年、自然史博物館への改組・開館とともに1986年まで館長を務められた。1983年から2007年まで京都山科の橘女子大学（1988年、京都橘女子大学に、さらに京都橘大学に名称変更）教授に就任され、その間1992年～1995年には学長を務められた。退任後は名誉教授の称号を受けられた。さらに、こ

の間、1990～1992年には徳島県立博物館館長、1995年～2007年にはお住まいの岸和田市の市立きしわだ自然資料館館長を務められた。

このほか地学団体研究会会長、日本博物館協会評議員、日本自然保護協会理事、岸和田市教育委員、大阪自然史センター理事長などたくさんの役員を引き受けられ、日本地質学会名誉会員、自然史博物館名誉会員にも推挙されていた。

「恐竜の世界」（大阪自然科学研究会、1975）、「古生物学各論」（築地書館、1975）、「古生物学から人類まで」（講談社、1981）、「博物館学講座5 調査研究と資料の収集」（雄山閣、1978）、「きょうりゅう」（保育社、1982）、「概説 地球の科学」（学術図書出版社、1985）、「大阪府の博物館」（中央公論美術出版、1983）、「きょうりゅう そのなかまたち」（金の星社、1987）、「博物館の楽しみ方」（講談社、1994）、「地学事典」（平凡社、1996）、「自然史博物館一人と自然の共生をめざして」（八坂書房、1998）、「大阪層群のはなし」（轟陶磁器史料室、2006）、「ひろがる日本のミュージアム みんなで育て楽しむ文化の時代」（晃洋書房、2007）などたくさんの著作がある。

大阪市立自然史博物館の創設に努力され、全国ではじめての「自然史」を表にだした博物館を創りだされた。それも国立や都道府県立でなく、大都市ではあるが市町村レベルでの博物館である。そこには恐竜の実物化石あるいはレプリカを日本でいち早く導入され、ユニークな展示、奇抜な特別展を続け、高い研究レベル、豊富な所蔵標本数



図1. 千地万造先生。

を誇っている。もちろん、大阪という地域にもこだわっている。博物館活動での千地さんの功績については博物館関係者が、またマチカネワニの発見など地質学での功績は地質学関係者が書かれるであろう。

ここでは関西自然保護機構（KONC）の創設、その後の会の発展への貢献を述べさせていただこう。

関西自然保護機構の発足は1978年4月のこと、設立後、すでに37年にもなる。設立時の役員は、会長四手井綱英さん、副会長森下正明さん・吉良竜夫さん、理事長朝日稔さん、理事には奥田東さん・今西錦司さん・小川房人さん・石井健一さん・菅沼孝之さん・千地万造さんと私であった。千地さんが設立に大きく動かれたのだが、理事長を朝日さんに頼み、ご自身は裏方にまわられたようだ。設立時の理事に私が入っているが、会長につかれた四手井さんが近くにいた私を連絡係として推挙したのであろう。それでも奥田東（元京大総長）さんや著名な今西錦司さんを理事に加えていたのだから、豪華な布陣だったといえよう。しかし、奥田さん・今西さんが理事会に来られることはなかった。

関西自然保護機構会誌第1号の発行が1978年10月のこと、KONC Newsの第1号（1978年5月）、第2号（7月）はガリ版、第7号（1980年3月）になってやっとタイプ印刷になっている。千地さんは1985年に理事長に就任され、事務局が自然史博物館へ移り、布谷知夫さんが事務局長を引き受けてくれた。1992年には、会長四手井綱英さん、副会長吉良竜夫さん・千地万造さん、理事長には牧岩男さん、1996年には四手井さん・吉良さんが会長・副会長を退かれ、会長に千地万造さん、副会長には小川房人さん・菅沼孝之さん・川那部浩哉さんが選出された。会長には2007年11月、自然史センターへ移行するまでとどまられた。

実質運営の理事会の理事長は牧岩男さん、山岸哲さん、そして私が引き継いだ、私の理事長時代が財政的にもっともきびしい時代であった。事務局を大阪市大の山倉拓夫さんの研究室や彦根の小林圭介さんのお自宅などに置かせてもらった。

とても、このままでは活動が続けられないと大阪自然史センター傘下への移行を決め、千地さんに報告すると、「考えられた末に理事会で決めたこと、ご苦労さん」といっていただいたのだが、創設者として行く末を心配しておられたことは確かだろう。理事長として力不足だった。ともかく、古い理事には退任してもらい、石井実さん・山西良平さんを新しい運営委員に推挙し、後を託した。千地さんも会長を辞任された。

しばらくお目にかかっていなかった。お元気にされているのかなと心配していたところへご訃報を聞かされた。長い病院生活の果てでなく、夕食後の一家団欒の中で息を引き取られたと聞いた。

関西自然保護機構も大阪自然史センター傘下に移行し、若く元気な役員が伝統を守りながら、時代に即した新しい活動を始められている。千地さんに「KONCは大丈夫ですよ、活発に活動していますよ」と報告し、ご冥福を祈る。



図2. 京都での理事会の後で、左から、千地先生、四手井さん、牧さん。理事会の後、賀茂大橋近くの飲み屋にて。